

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

私は、昭和49年に帯広市で生まれ、幼少期に父親の仕事の都合で釧路市に移り高校卒業まで過ごしました。その後、登別の学校を卒業し、平成6年に現在の会社に入社しました。

入社後、測量調査・数量積算・現場技術業務から、道路・河川・下水道・農業土木設計等の業務まで広く浅く携わることができたこと、入社してから10年の間に上司や先輩から基準・指針を参考としつつ自分で調べること、考えること、現場の重要性について教わった(当時はこのように思えなく結構つらかった。)ことは現在の自分のワークスタイルの基礎となっています。

その後、複数の技術士である上司から、論理的な問題解決の方法、技術提案方法、人とのつながりの重要性等々、間近で見て実感することができ、よい経験をさせてもらうことができました。

この頃から、技術士になりたいと思う様になり、上司の指導を受け平成18年から二次試験を5年間受け続け筆記試験を通過したと思ったら見識不足で口頭試験不合格。その後、2年間再挑戦をしてようやく技術士となることができました。受験が長期に及んだせいか、2度目の口頭試験の時に言われた「北海道は農業を唯一主翼としている地域であり、農業が立ち行かなくなると北海道も衰退するので今後も農業の発展のため貢献して下さい。」との言葉が今でも耳に残っています。

技術士となった現在、まだまだ知識や経験不足を感じていますが、今後も技術の研鑽と一層の倫理観をもって、自分のできることから北海道の発展に貢献していきたいと考えています。

大野 充雅 (おおの みつまさ)

●農業部門(農業土木)

勤務先

北王コンサルタント株式会社



→次号は、曾我部浩二さん(農業部門)

私は、大阪市で生まれ、千葉県で育ちました。大学では、環境保護に関わる学科に所属し、微生物による環境浄化について研究しました。卒業後は、東京で緑化関係のコンサルタント会社に入社し5年間勤務しましたが、動植物や生態系に関わる仕事をしたかったことや、母親が北海道出身であったこともあり、15年前に札幌に居を移し環境保全に関わる現在の仕事に就きました。

幼少期は、後にラムサール条約の登録湿地となる谷津干潟のすぐ近くに住んでいましたが、当時は一面ゴミとヘドロに覆われ悪臭を放ち、生き物の気配など感じない、まさに「死の海」でした。子供は近付かないよう指導されていましたが、当然(?)格好の遊び場となっていて、ヘドロに嵌って全身ドブ漬けになったことも。身体の臭いが完全に消えるまで一週間ほどかかった記憶があります。その後、干潟の環境は劇的に改善しましたが、保全や再生のために様々な取り組みが行われていることを高校生の頃に知り、強い関心を持ったことがその後の進学や就職に繋がっています。

現在、自分が関わっている自然環境の保全は、多くの人に関心を持ち、誰もが大切だと思うことですが、「なぜ大切なのか」を論理的に説明するのはとても難しいことだと感じています。自然や動植物を愛する気持ちは大切ですが、技術者である以上、須く科学的根拠に基づいて冷静に議論する必要があると思っています。また、業務の多くは公共事業に関わるものですから、万民が利する事業となるよう意識する必要もあります。「木も見て森も見る」のは難しいことですが、今後も関わった仕事が全体最適を得られるよう、多角的視野に立って研鑽・努力し、その成果を後進に伝えていきたいと考えています。

竹野 泰典 (たけの やすのり)

●建設/環境/農業/総合技術監理部門

勤務先

株式会社ドーコン



→次号は、畠山拓也さん(建設部門)